

重点項目	望ましい生活習慣の育成 【体】
重点課題	自主的に健康な生活を実践する生徒を育成する
現 状	<p>本校生徒は、各種調査結果から普段の生活の中で県平均より長い時間メディアに接している実態がある。昨年度までは、考査前の期間を決めて省メディアに取り組んだ。昨年は、「1日、メディアに接する時間が60分以内の生徒の割合が90%」を達成した。しかし、その期間のみで継続できない状態が続いている。</p> <p>「健康づくりノート(富山ゲンキッズ作戦)」では、平日のメディアに接する平均時間は3時間以上である。そのため、睡眠不足で体調不良を訴えたり、授業に集中できなかったりする生徒がいる。メディアに多くの時間を費やしているため、学習時間も少ない傾向にある。</p> <p>メディアに接する時間をなくすることは現実的ではなく、依存しないで、主体的にコントロールできる力を育成することが求められている。そこで今年度は、考査期間だけではなく日常的に自分の実態をモニタリングし、家族の協力を得ながら、自らの生活の改善を図ろうとする態度を養いたい。</p>
具体目標 数値指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日、テレビやDVDの視聴、ゲームをする時間が2時間以内の生徒の割合が80%以上になることを目指す。</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>「早寝・早起き・朝ごはん+メディア」取組実践表を利用し、普段の生活習慣及びメディアの利用状況を把握する。</li> <li>毎日の家庭で過ごす時間を生活ノートに記入する。そのことを通して自分の生活習慣を振り返り、家庭での生活習慣の確立に繋げる。</li> <li>「健康づくりノート(とやまゲンキッズ作戦)」を2回実施し、生徒の変容を見ることで自らの生活を改善しようとする意欲を高める。</li> <li>面接週間等で個別に対応し、生徒が健康な生活を実践できるよう配慮する。</li> <li>総合質問紙調査を校区内の小学校と連携して行うことで意識を高める。</li> <li>生徒の意識が高まるように、保健委員会の活動や広報委員会の活動を通して活性化を図る。</li> <li>メディアに接する時間を削減し、学習時間を増やすことで学力アップに繋がったり、睡眠時間を確保したりして、健康的な生活を送ることができるように支援する。</li> </ul>
外部評価者	学校評議員、保護者
公開の方法	学校評議員会、学校だより、ホームページ等